

いのちとくらしをまもる  
防 災 減 災

Initiative for  
Global Arts & Sciences

グローバルな学術の共創

令和 7 年 1 月 29 日  
気 象 庁  
国立大学法人横浜国立大学

## 令和 6 年度気象庁・横浜国立大学共催台風防災シンポジウム ～台風情報の見方と最新研究で知る、台風防災の現在地～ を開催します

気象庁と国立大学法人横浜国立大学は、『令和 6 年度気象庁・横浜国立大学共催台風防災シンポジウム～台風情報の見方と最新研究で知る、台風防災の現在地～』を令和 7 年 2 月 22 日（土）に開催します。

台風情報の見方や近年の主な台風被害、温暖化が台風に与える影響などの解説を通じて、台風防災についての理解を深め、被害軽減につなげられるよう、ぜひご参加ください！

### ■ 開催概要

- (1) 日 時：令和 7 年 2 月 22 日（土） 13 時 00 分～16 時 00 分  
(12 時 30 分開場)
- (2) 開催方式：対面方式及びオンライン方式（YouTube）の併用  
(いずれも参加費無料)
- (3) 会 場：気象庁講堂（東京都港区虎ノ門 3-6-9 虎ノ門庁舎 3 階）
- (4) 主 催：気象庁、国立大学法人横浜国立大学

### ■ プログラム・参加申込方法

プログラム・参加申込方法等の詳細は、別紙に掲載しています。

#### 問合せ先

気象庁 総務部企画課技術開発推進室 上山・清水

電話： 03-6758-3900（内線 2229・2239）

国立大学法人横浜国立大学 台風科学技術研究センター

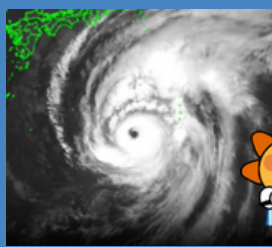
電話： 045-339-3494

メールアドレス： trc-office@ynu.ac.jp

令和6年度  
気象庁・横浜国立大学共催

# 台風防災 シンポジウム

～台風情報の見方と最新研究で知る、  
台風防災の現在地～



気象庁マスコット  
キャラクター  
「はれるん」

2025

2月22日(土)

13:00～16:00

会場：気象庁 講堂+オンライン

所在地：東京都港区虎ノ門3-6-9

東京メトロ（日比谷線）「虎ノ門ヒルズ駅」A2a出口より徒歩4分

東京メトロ（日比谷線）「神谷町駅」4b出口より徒歩5分

東京メトロ（銀座線）「虎ノ門駅」2番出口より徒歩10分

東京メトロ（南北線）「六本木一丁目駅」3番出口より徒歩15分

参加受付



事前申込制

参加費無料

現地先着100名まで

司会：竹下愛実（お天気キャスター）

**1** 台風情報の見方と近年大きな被害のあった台風の振り返り  
講演者：気象庁大気海洋部気象リスク対策課 西防災気象官

**2** 温暖化が台風に与える影響に関する研究：日本に与える影響  
講演者：気象研究所全球大気海洋研究部 吉田主任研究官

**3** 温暖化が台風に与える影響に関する研究：国際的な視点から  
講演者：台風科学技術研究センター 佐藤副センター長

**4** 「台風情報の高度化に関する検討会」中間報告  
講演者：台風科学技術研究センター 筆保センター長

**5** 「温暖化の影響を踏まえた台風情報の活用」ディスカッション  
ファシリテーター：台風科学技術研究センター 森副センター長

パネリスト：筆保センター長・佐藤副センター長・西防災気象官・吉田主任研究官・竹下愛実

お問合せ



<https://trc.ynu.ac.jp/>

[trc-office@ynu.ac.jp](mailto:trc-office@ynu.ac.jp)



045-339-3346

主催：気象庁・国立大学法人横浜国立大学



2025  
2月22日(土)

令和6年度気象庁・横浜国立大学共催  
台風防災シンポジウム



### 気象庁大気海洋部気象リスク対策課 西峰雄防災気象官

にし・みねお●大阪府出身。気象庁大気海洋部気象リスク対策課防災気象官。気象庁において気象警報・注意報といった防災気象情報の運用を担当。気象大学校を卒業後、気象庁の観測船に乗船して日本海で海上気象観測に従事。その後、主に気象庁の予報現場にて、台風の解析・予報、天気図の作成、天気予報や防災気象情報の発表業務に携わる。日本気象学会の機関誌にて、気象衛星ひまわりで観測された雲の画像を紹介する記事を執筆することも。2019年に気象庁予報課予報第五班長、2021年に札幌管区気象台予報課長を経て、2023年から現職。



### 気象研究所全球大気海洋研究部 吉田康平主任研究官

よしだ・こうへい●北海道札幌市出身。気象庁気象研究所主任研究官。気象研究所において、地球全体の大気、海洋、陸面、大気微量成分など様々な要素を取り込んだ数値予測モデルである「地球システムモデル」の開発とそれをを用いた温暖化予測及び台風を含む大気現象の研究を行っている。2011年に北海道大学大学院を修了後、地方気象台勤務を経て、気象研究所に研究官として勤務、2023年から現職。



### 台風科学技術研究センター 筆保弘徳センター長

ふでやす・ひろのり●岩手県生まれ、岡山県育ち。横浜国立大学教育学部教授・台風科学技術研究センター長。京都大学防災研究所、防災科学技術研究所で台風災害の研究経験や、モバイルコンテンツ「台風ソラグラム」(MTIの共同研究)やリアルタイム被害予測ウェブサイト「シーマップ」(あいおいニッセイ同和等の共同研究)の開発など、これまで防災研究には深く関わってきた。シーマップ開発に関して第29回地球環境大賞受賞(2020年)。現在は内閣府「ムーンショット目標8」プロジェクトマネージャーとして携わる。



### 台風科学技術研究センター 佐藤正樹副センター長

さとう・まさき●東京大学大気海洋研究所教授、横浜国立大学台風科学技術センター副センター長・教授。スーパーコンピュータ「富岳」を用いた全球雲解像モデルNICAMによる台風数値シミュレーションの研究を進めている。気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第6次評価報告書の著者として参加、気象庁の線状降水帯予測精度向上ワークグループの主査を務める。



### 台風科学技術研究センター 森信人副センター長

もり・のぶひと●岐阜県出身。京都大学防災研究所教授。気象・水象災害研究部門教授。津波、高潮、高波の災害を引き起こす「ハザード」や地球温暖化の影響を研究。また、海の環境の保全や利活用から防災・減災に取り組む活動にも関心を持つ。現在は横浜国立大学台風科学技術研究センター副センター長も兼任。岐阜大学工学部卒業後、同大学院修士課程を修了し、博士(工学)を取得。日本学術振興会特別研究員、テラウェア大学客員研究員、電力中央研究所主任研究員を経て、テキサスA&M大学客員講師、大阪市立大学講師、京都大学防災研究所准教授、教授を歴任。2020年にスウォンジー大学名誉教授、文部科学省技術参与、2021年に横浜国立大学台風科学技術研究センター副センター長、先端科学高等研究院客員教授、2022年に広島大学客員教授も務め、防災分野に貢献。



### 竹下愛実(お天気キャスター)

たけした・めぐみ●愛知県出身。気象予報士・防災士・気象防災アドバイザー。気象キャスターとしてNHKや民放各局で気象情報担当を歴任し、バラエティ番組での気象監修も務める。各地の小中学校での出前授業や気象学会の委員を務めるなど、幅広く活動。

#### <注意事項>

- ・オンラインはYouTubeを利用したリアルタイムの配信になります。視聴環境を準備の上申し込みください。
- ・現地参加の場合、キャンセルのご連絡は開催前日までにお願いいたします。(trc-office@ynu.ac.jp, 045-339-3346)
- ・現地参加の方には、受付開始時間や会場までのアクセス情報を別途ご案内いたします。
- ・オンライン参加の方には、事前に視聴用のリンクをメールでお送りいたします。当日までにご確認ください。
- ・ご不明点がございましたら、台風科学技術研究センター事務局(045-339-3346)までお問い合わせください。